

図書館だより

笠間市立図書館
平成29年2月発行
中学生版 (No. 68)

☆今月の特集:日本の季節を楽しもう!

日本には、春夏秋冬の四季だけでなく、「二十四節気」、「七十二候」という季節の分け方があります。旧暦をもとに暮らしていた時代には、人は季節の移ろいをこまやかに感じとって生活していました。日一日と春らしく変化していく季節を、みなさんもきっと感じているはず! 花が咲いて色鮮やかになるこれからの季節を、ぜひ楽しんでみてください。

二十四節気と七十二候を知る

- 『絵本ごよみ 二十四節気と七十二候』 全4巻 教育画劇
『日本の七十二候を楽しむ 一旧暦のある暮らし』 東邦出版
『旧暦で楽しむ日本の四季 二十四節気と七十二候』 宝島社



二十四節気は、立春からはじまり、ひと月に二節気すすみながら大寒でおわります。今年の立春(りっしゅん)は、2月4日~17日です。

七十二候は、節気を5日ごとに三つに分けます。たとえば今年の立春は、「東風凍解(とうふうこおりをとく)」2月4日~7日、「黄鶯睨睨(うぐいすなく)」2月8日~12日、「魚上氷(うおこおりにあがる)」2月13日~17日、というように三つの候に分かれます。

【参照:『日本の七十二候を楽しむ』】

季節にまつわるいろんな名前を紹介!

- | | | | |
|--------|-----|------------|------|
| 『花の名前』 | 小学館 | 『空の名前』 | 角川書店 |
| 『雨の名前』 | 小学館 | 『宙(そら)の名前』 | 角川書店 |
| 『風の名前』 | 小学館 | 『月の名前』 | デコ |

旧暦とは?

地球が太陽のまわりを一周する時間の長さを一年とするのが太陽暦。月が新月から次の新月になるまでを一か月とするのが太陰暦。

旧暦とは、太陽暦と太陰暦を組み合わせた太陰太陽暦のこと。昔ながらの日本の暮らしの暦。旧暦では、月日は月の満ち欠けによる太陰暦で定め、季節には太陽暦の一年を四等分した春夏秋冬の他に、二十四等分した二十四節気と、七十二等分した七十二候を取り入れていました。



図書館カレンダー

2月						
日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28				

* ■ 笠間・友部・岩間 3館共通休館日

* □ 友部休館日

* ○ 笠間・岩間休館日

* 開館時間 午前9時~午後7時

* 閉館時の返却は、ブックポストに入れてください。

CD・ビデオ・DVDは、こん包をお願いします。



中学生の皆さん読んでみましたか？

『昔話法廷』 NHK Eテレ「昔話法廷」制作班/編 今井雅子/原作 イマセン/法律監修 伊野孝行/挿画 金の星社



めでたしめでたしで終わる昔話は、ほのぼのとした世界だけではなく、恐ろしい要素も含んでいます。この本は、登場人物を現代の法律で裁くNHK Eテレの番組「昔話法廷」を書籍化したもので、「三匹のこぶた」「カチカチ山」「白雪姫」の3つの裁判を収録しています。誰もかれもがあやしく見えます。心理描写を深読みしたり、物語のウラのウラを読むのが好き！という人におすすめです。

『寿命図鑑』 やまぐちかおり/絵 いろは出版/編著 いろは出版



動物や植物はもちろん、国別のヒトの寿命、からだの各臓器や細胞にいたるまで、あらゆるものの寿命を、13のカテゴリーに分けて紹介している図鑑です。食べ物や、生活で使われているモノ、機械、建物、天体など、生きもの以外の寿命も、そのものにまつわるエピソードとともに書かれているので、「へえ、そうなんだ〜。」と思うこと受けあいです。全ページカラーイラストで、とても見やすい本です。雑学好きな人は、ぜひ読んでみてください。

学校からのメッセージ

今月は岩間第一小学校からです

岩間第一小学校では、図書委員会が中心となって毎年読書集会を開いています。今回は、全国読書週間の時期に合わせて実施したその活動を紹介します。

最初に、絵本『半日村』の読み聞かせを行いました。大きなスクリーンに映し出された絵本の挿絵と、図書委員による情感のこもった読み聞かせは圧巻でした。みんなの集まる体育館一帯が、何となく温かな雰囲気になりました。臨場感があったからでしょう。熱心に耳を傾けていた子どもたちは、『半日村』の内容をよく理解し、あらすじを問われると自信をもって答えていました。次に行われたのはアンケートによる「図書室人気の本ランキング」です。子どもたちは順位発表に一喜一憂でした。第1位となったのは『サバイバルシリーズ』です。「オー。」と自然に納得の声が上がりました。図書室でのマナーや本の借り方も再確認しました。4月のオリエンテーションで、各学年の友達に、図書室の利用の仕方について熱心に説明していた姿が思い出されます。その後、校長先生が『花さき山』『モチモチの木』など斎藤隆介さんの作品を紹介しました。偶然にも、『半日村』と同じ作者の作品です。子どもたちは、「本はおもしろい」という印象が強かったことと思います。



【読書集会の様子】

翌月は、図書室に足を運ぶ子どもたちが増え、ランキングで紹介された本を探す姿も見られました。